

平成30年度

中学生の

「税についての作文」

入選作品集

稲城市



南多摩納税貯蓄組合連合会

稲城市 中学生の「税についての作文」表彰式

平成三十年十一月二十九日 稲城市役所にて開催

稲城市長賞

心と心を繋ぐ架け橋

稲城第六中学校三学年 三浦さらさん・1

日野税務署長賞

順番に恩返しをしていく社会へ

稲城第二中学校三学年 馬場紗江さん・2

東京都八王子都税事務所長賞

日本の増進と税金との連繋

稲城第六中学校三学年 高山知奈さん・3

全国納税貯蓄組合連合会 会長賞

笑顔を作る税金

稲城第三中学校三学年 西尾みずずさん・4

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

困っている人のために税金を

稲城第四中学校三学年 室井万由子さん・5

東京納税貯蓄組合総連合会 会長賞

ふるさと納税について思うこと

稲城第六中学校三学年 本多渚さん・6

南多摩納税貯蓄組合連合会 会長賞

ふるさと納税からの気付き

稲城第三中学校三学年 橋本楽乃さん・7

東京税理士会日野支部長賞

「税金」について思うこと

稲城第一中学校三学年 二瓶光叶さん・8

南多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞

私たちの生活と税

稲城第二中学校三学年 新町美涼さん・9

税について思ったこと

稲城第三中学校三学年 佐藤稜さん・10

稲城市長賞

心と心を繋ぐ架け橋

稲城市立稲城第六中学校 三学年 三浦 さくら

今年の7月に起こった西日本豪雨では多くの方が被害にありました。自衛隊が行方不明者を探したり家や道路が壊された映像をニュースで見ても胸が痛みました。今も避難所で生活している人がいると思うと、1日でも早く元の生活に戻れるといいなと思います。

災害にあった地域は何年か経つときれいな町に戻っています。それは、被害にあった人たちがお金を出し合ったり、募金を使って復興しているのだと思っています。ですが、道路の復旧や自衛隊を派遣する費用など様々なことに税金が使われているのだと驚きました。

私にとって身近な税金は消費税です。消費税があることで欲しい物があってもお金が足りずに買えなかったり、支払う代金を計算しなければいけなくて面倒だったり、税金に対しては良いイメージがほとんどありませんでした。

私が払っている消費税も復興の役に立っているといいなと思って、消費税の使われ方を調べてみました。消費税は使い方が決まっています、年金・医療・介護・子育ての支援などの社会保障費に使われているそうです。お年寄りや子どものための費用なので復興とは違う使われ方でした。ですが、私の払った税金が身近にいる人の役にたっていると知って、少し税金に対する気持ちが変わりました。

学校の授業で、「もし税金がなくなったらどうなるのか？」というビデオを見ました。税

金という言葉はよくききますが、難しいイメージがあり、深く考えたことがなかったのでとても興味が湧きました。税金がなくなると学校に通えなくなる子どもがでてしまうこと、火事になってもすぐには消火活動ができないことなど驚くことが多くありました。子どもが学校に通えないと聞いて発展途上国のことが浮かびました。先進国である日本でも税金がなくなるだけで生活が変わってしまうということは、税金は日本を支える重要なものだと考えられます。今まで当たり前だと思っていて気づきませんでした。税金があることで毎日安心して生活できているのだと知るきっかけになりました。

納税は日本人の義務です。義務というと押しつけられているイメージがありますが、私たちが一方的に払うだけではなく公共のサービスを受けています。さらに災害の復興支援や高齢者、障害のある人など困っている人のために使われていることを知ることができれば、仕方なく払うという気持ちはなくなると思います。嫌々払う人を減らすためにも多くの人が税金の使われ方を知るべきだと思います。

私が働きはじめる頃は、少子高齢社会になり税の負担が重くなると知りました。大変だとは思いますがきちんと納税して安心して暮らすことができる社会にしていきたいです。

順番に恩返しをしていく社会へ

稲城市立稲城第二中学校 三学年 馬場 紗江

世界には、勉強がしたくてもできない子どもたちがたくさんいる。私はこの事実を母から聞き、ショックを受けた。

貧しい国では教育は当たり前のことではない。学校へ通うことができるのはごく一部の恵まれた家庭の子どもたちだけだ。貧しい家庭の子どもたちは、畑仕事や水汲み、幼い兄弟姉妹の世話などのため、学校に通うことができない。東南アジアでは子どもの人身売買が横行している。その原因の一つとして、貧困のほかに教育が普及していないことがある。教育がないために容易に騙されてしまうのだ。

教育は、国民を守る最大で最重要な「盾」だと思う。しかし教育が受けられるのは平和と豊かさがあつてこそなのだ。逆に言えば、日本が世界の中で生き抜くことができるのも、平和で豊かな生活も、教育が土台となつている。この二つは互いに密接に関係している。

そのことを私は社会科の勉強から学んだ。なぜ私はこうして勉強ができるのか。その環境を作ってくれているのは、税金である。国民が働いて得たお金の中からお金を出し合

つて、この日本社会を作り上げている。つまり、たくさんさんの誰かに、私は支えられているのだ。感謝の気持ちが湧き上がってくる。

しかし教育に使われる税金は十分だろうか。学校施設の老朽化、なにより、異常な夏の暑さにも関わらずエアコンの設置が進んでいない自治体が多いこと。また高等教育を受けたいと願う学生への支援も不十分だ。能力があ

るのに学費の問題で学べないなら、日本は世界の中での競争力を失ってしまう。まだまだ私たちの学ぶ環境は整っていないとはいえない。その一方で国の財政は決して豊かではない。

多額の国債を抱え、労働人口が減少すれば、さらに財政状況は悪化するだろう。しかし同時に、社会の中で税金を必要とする分野はますます多くなっている。私たちはどうすればこの危機を乗り越えていけるのだろうか。国民の一人として、私にできることを考えた。

私には医師になるという目標がある。医師として地域の在宅医療に携わりたい。超高齢社会では、自宅で最期を迎えたいと願う方々は非常に多い。私はそのお手伝いをしたい。そのことを通じて、二つの恩返しができることに気が付いた。一つは、今まで納税を通して私を支えてきてくれた方々に、住宅医療を通して恩返しをすること。もう一つは、これから日本を担っていく若い世代を、納税を通して、今度は私が支えること。私はこの二つの方法で、私を育ててくれた日本に恩返しをしたい。

順番に、順番に、支えられ、支えて。そんな社会になれば必ず危機は乗り越えられる。納税は、自分自身の人生だけではなく、みんなの人生に、未来を創るものだ。日本が真の意味で豊かな国になるために、今の私はがんばって勉強しよう。

東京都八王子都税事務所長賞

日本の増進と税金との連繫

稲城市立稲城第六中学校 三学年 高山 知奈

「夕飯は、ふるさと納税で頂いたお肉でト
ンカツを作ろうかな。」

「今日のお昼に入れたおみかん、ふるさと納
税で頂いたのよ。」

こんな母との会話が頻繁にある。このふるさと
納税には、地方の新鮮で美味しい食べ物
が家から一歩も出ずとも手に入るとい
う驚異的なメリットがある。私の家に初めてこのふる
さと納税で頂いた食べ物が届いた時は体中に
衝撃が走った。しかし、もちろん無料で食
べている訳ではない。私はこのふるさと納税が
いかにして成り立っているかが気になり、調
べてみた。

ふるさと納税とは、納税ではあるが、自分
の生まれ故郷や応援したい地方など、好きな
自治体に寄附金を贈ることが可能であり、そ
のお礼として名産品が貰えるという制度だ。
そして、私達が寄附した税はその地域の発展
のために様々な物に使われる。こんなに両者
の思惑が一致する取引が今までにあっただろ
うか。私はこのふるさと納税に感嘆した。
さて、この納税方法は税金の支払い方であ
くまでも一つで、他にも所得税、消費税、法
人税など沢山の種類があるが全て国のために
使われている事に違いはない。とはいえ、税
金に悪いイメージを持っている人も少なくな
いと私は考える。以前私も、父が懸命に働き
頂いたお金を、どうして国にあげなければな
らないのだらうと思っていた。しかし、その
税金は国のために使われている。国民はその

事をしっかりと理解しなければならぬと思
った。それでも税金への偏見を持つ人にあ
て問いたい。日々歩いている道路や橋は誰が
作ったのか。学校や保育所は誰が建てたのか。
年金や医療、介護などの公共サービスは誰の
お金で賄われているのか。そう、それらは全
て国民の税金から成り立っている。だから、
税金で作られている物に対して感謝しながら
使うべきなのではないだろうか。

先日新聞で消費税が二五%のデンマークの
記事を見た。そこには「世界幸福ランキング
一位」と記載してあった。消費税が日本より
も約三倍も高いのになぜ世界で最も幸せなの
かと疑問に思ったが、それはすぐに解決され
た。デンマークでは、国民が納めた税金によ
り社会保障が手厚く、出産費、医療費、大学
までの教育費を無料にしている。また、総選
挙の投票率は八五%前後と常に高く、しっか
りと国民が納得する形で消費税率が決められ
てきたという歴史があるそうだ。

私は、デンマークほどではないかもしれな
いが、今ある税金を最大限に使って公共サー
ビスをより内容豊富にし、ふるさと納税のよ
うに国会だけではなく、国民自身が税金の行
方を決められるようにするのも必要なのでは
ないかと考える。税金の行方を決める国会と
国民の双方にとってプラスになれば、税金の
使い道が広がり、これからの日本をより増進
させることができるのではないだろうか。

全国納税貯蓄組合連合会 会長賞

笑顔を作る税金

稲城市立稲城第三中学校 三学年 西尾 みすず

沢山の拍手。そして、笑顔。上手ね、と私

たちのことを誉めてくれる声。ありがとう、と感謝して下さる言葉。感謝するのは私たちの方だ、と私は思った。その私が感謝するのは、老人ホームで生活し税金によって支えられている高齢者の方々だ。私はみなさんの笑顔を見て舞台を下りた。

私は、所属していた部活動で老人ホームを訪問し歌をお届けする、という活動に中学の三年間参加していた。先ほどの拍手や言葉は今年の中学最後の訪問演奏でのことだ。この体験は、私が税金やその未来について考えるためにヒントをくれる貴重なものになった。

今回、この税の作文を書くにあたって、税金についての冊子を読んだ。その時に、社会保障関係費が国の歳出で一番多いことを知り興味を持った。また、社会保障関係費とは何だろう、と疑問に思い、調べてみた。すると安心して生活していくために必要なサービスが社会保障と言い、それに使われる税金であることが分かった。また、老人福祉が中心であると知った。最初は複雑で難しいと感じて頭を抱えたが、考えているうちにあの最後の訪問演奏の時に出会った高齢者の方々の顔が頭に浮かんだ。そうか！と私はひらめいた。社会保障の税金は私たちの演奏を喜んで下さった方々のためのものだったのか、と私は考えた。また、日本の社会保障関係費の割合は年々増加していて良いことだと思った。そして日本はなんて素敵な国なんだろう、と感じ

た。

しかし今、税金の無駄使いについて様々なニュースが報道されている。そのため、私は税金についてあまり良いイメージを持っていなかった。だが、私はもう税金は福祉など、国民のために使われることを知っている。また、私たちの税金によって今日も支えられている、生活、笑顔、命があるということに気が付かされた。私は商品を買うことでしか税金を支払う経験をしたことがない。しかしそれも多くの人の笑顔を作ることに貢献していると思うと、嬉しくなった。

このような体験から私は、税金は高齢者の方々をはじめとする沢山の人々、そして未来のために必要不可欠なものだと考える。また少子高齢化が進んでいる日本では、私が社会人になって働くころ、社会保障の費用が増えるが、その費用を負担する人は減っている。だから、負担が多くて「税金が高い」と言う人が沢山いると思う。しかし、中学三年生になって初めて詳しい税金の使い道を知った私は、それはもったいないことだと思う。せっかく私たちはこの素敵な国に生まれたのだから、税金の使い道を深く理解するべきだと思う。そして税金は人々の笑顔を作る大切なものだと頭に入れて気持ち良く納税するべきだと思う。

困っている人のために税金を

稲城市立稲城第四中学校 三学年 室井 万由子

中学生の私が税というものを意識する機会はあまりありません。しかし、歴史の授業で勉強した租・調・庸という飛鳥時代の税や、鎌倉時代の年貢といったしくみは人々が生きていく中で様々な形を変えながらも続いてきました。

現代の日常生活の中にも泥棒が入ったら警察に、火事になったら消防に、具合が悪くなったら、救急車で病院へと当たり前と思っ

ラ整備や、がれきの処理、住宅の移転や再建住民の生活再建が行われるそうです。東日本大震災の時、私はまだ小学一年生で地震で家や学校が揺れて、恐かったという自分の近くで起こる事しか見えていませんでしたが、大きくなるにつれ、今もなお苦しんだり、悲しい想いをしていてる方がたくさんいると知りました。また、7月に起こった西日本豪雨災害でもたくさんの方が亡くなり、家だけでなく道路や街が大変な被害にあっています。今後この西日本豪雨災害にも、国会で話し合われ

私達を支えてくれます。

私はまだ中学生で、商品を買って消費税を支払っているとは言っても、私が働いて、もらったお金で支払っている訳ではなく、両親が一生懸命働いて、もらったお金をおこづかいとしてもらい、それで支払っただけなので

復興予算が使われるのではないかと思えます。私も将来、税を支払って災害にあわれた方々の救いになればいいなと思います。

まだ直接、社会を支えているとは言えません。私も将来、大人になった時には、きちんと支払うべき税金を支払い、今まで支えてくれた大人達のように子供達や、高齢者達を支えていきたいと思えます。

しかし、東日本の復興予算は悲しいことに間違った使われ方をした例もあるようです。私はもう小学一年生ではありません。中学三年生です。東日本大震災のときよりも、見聞きする量も吸収する量も違います。自分の力で働き、社会を支える立場になるのもあと何

支えるという偉そうですが、税金は募金のように特別な場所へ行ったり、手続きをしなくても困っている人を支えられるという事が今回、この作文を書く前に本などで調べてみて分かりました。

納税するときがきたら、納税した税金が正しく使われているかどうかについて関心を持ち、支えられてきた分、困っている人の為にも税金が正しく、間違った使われ方をしないでほしいと願っています。

それは、東日本大震災の復興に使われる復興予算の一部が所得税、住民税、法人税を増税した復興増税でまかなわれていると知ったからです。その復興予算を使用して、インフ

ふるさと納税について思っています

稲城市立稲城第六中学校 三学年 本多 渚

数年前からふるさと納税制度の話題が賑わっているが、僕には腑に落ちないことがある。それはふるさと納税というものは本来お世話になった地方、ふるさとに税金を払って恩返しをし、活性化に繋げてもらうというのが趣旨ではないだろうか。

国は地方創生を推進し、衰退する地方を元気づけようとする政策を進める中で、ふるさと納税制度の仕組みを考えた。これは大変シンプルで個々の選択余地をもった柔軟性の高い方法で非常に良い政策だと思った。実際自分のふるさとでなくても、どこでも自由に寄附金として納税することができ、そして寄附してもらった所は寄附者にお礼として品物を送れるようになっていて。つまり納税者からすると市場よりも破格の値段でお礼の品物をもらせることになり、これは得だと大変盛んになっている。

しかし一方で、東京など大都市での納税が軒並減ることとなり死活問題となっているというニュースを目にした。多くの自治体が肉

やカニなど豪華な返礼品を用意して寄附を集めているが、それに比べて魅力的な特産品が乏しい都市部では税収が減り、待機児童問題を解消すべく保育園の設置など本来取り組むべき事案が先送りされるのは本末転倒の話である。結果、現在ふるさと納税制度が自治体の税金の奪い合いの道具とも言われ悲しいことである。

また寄附が税額控除されるため、節税対象

の一種として一部の人たちに利用されているのも違和感を感じる。しかも年々得られる返礼品が豪華になりお得感を実感できるようになったことに拍車をかけ、今ではふるさと納税のガイドブックが多数出版され、テレビでも特集が組まれていて、税金対策の為のお取り寄せの品のように感じることもある。

そんな中、文京区は貧困家庭を支援する「子ども宅食事業」を、世田谷区は「玉電の車両保存」という特定の政策に絞ったテーマ型ふるさと納税を発表した。これらは返礼品には頼らない新しいモデルで、本来の税金の使い道を考えようというメッセージが盛り込まれた形で、僕も初心に戻った。

元々、「ふるさと納税で日本を元気に！」というスローガンで始められた創設の思いを掘り起こし、寄附する側も安易に特産品に飛びつくのではなく、各自治体が寄附金をどういう風に使い、どういうことに役立てたいのかというその向こうの思いを組み取り、選択する必要があるとつくづく思った。

ふるさと納税の仕組みを使い、西日本豪雨の被災地を支援する動きが広がっているように、人々の善意が手軽に届けられていることは意義深く心温まる思いである。

地方間格差や過疎化などによる税収減少に悩む自治体に対しての格差是正を推進するための新構想として創設されたふるさと納税が清く正しく健全に発展していくことを願う。

南多摩納税貯蓄組合連合会 会長賞

ふるさと納税からの気付き

稲城市立稲城第三中学校 三学年 橋本 楽乃

「桃が届いたよー。」

母の声だ。ふるさと納税の返礼品である桃が家に届いたのだ。実は去年の末に私達の家は、初めてふるさと納税を利用した。だから、今こうして和歌山県から桃が届いているのだ。

そもそも「税金を納める」ってどういうことなのだろう。まだ仕事もしていない私にとって「税」というと、品物を買うときにかかる消費税。親の給料から差し引かれている所得税。税に対するイメージはこれ位しか浮かばなかった。

では、ふるさと納税とはどんな仕組みなのだろう。初めて少し身近に感じられた「ふるさと納税」について、詳しく調べてみた。ふるさと納税は地方自治体に対する寄附金のことだ。普通、私達は住民票がある地方自治体に住民税や所得税を納めている。その一部を自分が応援したい地域に寄附するのだ。すると、寄附金額から二千円を引いた金額が全て所得税と個人住民税から差し引いてもらえるのだ。そして、寄附をした自治体から返礼品としてその地域の特産品などがもらえたり、東京にいなながら、地域の発展に協力できたりするのだ。さらに、私が驚いたことは、全ての自治体ではないが、自分の寄附金をどんなことに使ってほしいかが選べるのだ。

このふるさと納税には良いところが二つあると思う。一つは、寄附する側も、地方の人達、寄附される側、どちらも嬉しくなれるこ

とだ。寄附をする側は、例えば都会にいなながらも地域の人を支援でき、またそのお礼として返礼品などを貰える。寄附される側は、財政の支援を受けられ、返礼品を送ることで、その地域の特産物などを知ってもらえるきっかけにもなる。どちらも笑顔になれる仕組みだと思う。二つ目は、ふるさと納税を通じて税への関心が高まることだ。

「税金が高い。」

「消費税をこれ以上あげないでほしい。」

そう言っている大人は結構いる。だけどその

「税」という形で集められたお金がどんな目的でどんなことに使われているのかを知ったり、自分で考えて選べるのなら税を払うことに前向きになり、希望がもてるのではないだろうか。私は、ふるさと納税の仕組みを知って、今までぼんやりとしか考えられなかった「税」がぐっと身近になった。

「働いていないから関係ない。」

「自分の思い通りの目的に使えないから、つまらない。」

という考えから、自分の事としてひきつけてよく考えられるようになった。私は大きくなったら働くだらう。そして、税金を納めると思う。その時に自分はこんなことに使ってほしいと自分の考えをできるだけ発信していきたい。また、税金を払う人々が税に対して自由に自分の意見をもち発信し、それがより生かされる仕組みをみんなで作りたいと考える。

「税金」について思うこと

稲城市立稲城第一中学校 三学年 二瓶 光叶

私が中学一年生の頃、夜に自転車で塾に行く途中、交通事故に遭いました。私は横断歩道を渡っていたのですが、その横断歩道は白いラインが消えてしまっていて、よく見えないうものでした。すぐに回りの人が、警察や救急車に連絡をし、早急に手当てを受けることができませんでした。幸いにも、打撲と擦り傷だけで済み、大事には至りませんでした。

夜間にもかかわらず、警察の方が何人も事故現場に来てくれました。救急車も利用し、病院で手当ても受けました。しかし、多額の医療費を請求されるということはありませんでした。このような事故の時にも、「税金」によって保障され、不安になりません。また、私が交通事故に遭った横断歩道ですが、白色のラインが消えていたものが、数ヶ月もしないうちに、新しい横断歩道が整備されたのです。これも税金によって、道路を安全に渡れるようにと、整備しているのだと思います。普段何気無く通っている自分の街の道路も、税金が使われているのです。このように、「税金」は、私たちの生活を支えています。

税について調べていく中で、日本は来年の十月から消費税が十パーセントになるという記事を目にしました。品物を買った時などに払う税金、「消費税」は、私たち学生にも関係があります。そんな消費税、日本は十パーセントになり、「品物が高くなって困る。」と思う人も多いかもしれません。しかし、海外の

消費税と比べると、日本の消費税よりも高い国がほとんどでした。例えば、中国は、十七パーセント。さらに、スウェーデンやノルウェーなどのヨーロッパでは、二十パーセントを超える国や地域も少なくありません。しかし、消費税が高い国ほど人々の不満が少ないのです。では、このような高い消費税を支払っているのに、ヨーロッパの人々は何故、不満にならないのでしょうか。それは、高い税金の見返りがあるということです。例えば、国立大学の学費が無料になることや、医療や介護が無料になるなど、高い税金を払う変わりに生活が保障されているのです。「海外にはしっかりとした見返りがあるのに、日本にはそれが無い。」と思うかもしれません。しかし、一一〇番をすれば、警察がくる。一一九番をすれば、救急車がくる。「あたり前」だと思っ、これらのことは、税金の支えがあるからこそ、成り立っているのだと思います。

しかし、日本の場合、税金が高くなれば、景気が悪化してしまったり、貧富の差が拡大してしまいます。

このような事態にならないためにも、国民の「税金」がどのような場所、場面で使われているのか、政治と向き合って考える必要があるのではないのでしょうか。この「税金」が日本の未来をよりよくする「税金」になるようになっ、てほしいと思います。

私たちの生活と税

稲城市立稲城第二中学校 三学年 新町 美涼

私たちの生活は税のおかげで成り立っています。例えば、学校の机やイス、部活の大会などで使う陸上競技場や野球場、登下校で通る道や信号機などは全て税金が役立っています。このように私たちは税と関わりながら生活しているのです。私は税がどのように使うのかを今まで知りませんでした。そして、日本は税が高い国だと思っていました。

けれど、日本はそこまで税が高い国ではありませんでした。ドイツは十九パーセント、イギリスは二十パーセント、スウェーデンはなんと二十五パーセントでした。とても驚きました。でもこの税の高い国は幸福度が高く、サービスが充実しています。スウェーデンは教育費が小学校から大学まで入学金、授業料を全て負担、さらにノート代、教材費、地域によつては通学定期も無償でもらえるそうです。

そしてこのように、スウェーデンは税金の内訳がみてわかるようになっていきます。日本も税金の内訳を国民にわかるようにすると税金を高く感じたり、高いことに不満を感じなくなると思います。

そして現代は少子高齢化が日本では進んでいます。少子高齢化が進むと、年金や医療、介護などの費用が増える、生産年齢人口の減少に伴い、費用を負担する働き手が減り働き手の負担が重くなっていくなどの問題点が出てきます。一九七〇年は九・八人の現役世代がひとりの年金世代を支える仕組みでしたが

二〇六〇年には一・三人の現役世代が一人の年金世代を支えることになってしまいます。そのため、日本もスウェーデンのような税金の使い道をわかるようにしたり、税金を高くし、年金を貰う上で現役世代に負担が重くならないようにすると、暮らしが豊かになると思います。

税金は、私たちの生活でとても役に立っています。それでも使い道を知らないとな不満に感じる人が多く出てきてしまうでしょう。これからは、税のありがたみを感じ、「社会のためだから不満はない」と思ってくれる人が一人でも増え、良い社会になればいいと思います。

今回のことをきっかけに、税のことをよく知り、税の大切さを感じることができました。税のことをもっと多くの人に伝え、国民全員がよりよい生活をし、日本に明るい未来がくることを願っています。

南多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞

税について思ったこと

稲城市立稲城第三中学校 三学年 佐藤 稜

私たちの身の回りで税金がどういったところで使われているのかを考えたときに、以前父と一緒に川へ行つたときのことを思い出しました。偶然、「一級河川」と書かれた青い看板が目に入り、「一級河川って何？」と父に聞いたことがあります。その時父は、川の重要度に合わせて、国が管理しているものが「一級河川」、都道府県が管理しているものが「二級河川」と教えてくれました。そして、道路にも「国道」「県道」と書かれた看板を見かけることがあり、それも同じことなのだろうと思っていました。

このような、普段当たり前のように使っている道路や、川の水を利用した水道水などを管理することに、私たちの税金が使われているということ、今回税金について考えて、改めて学ぶことができました。

私の身近なところで税金が使われているものをあげてみると、学校の校舎やプール、公園、図書館が思いつきます。警察署、消防署なども私たちの安全な生活には欠かせません。また、教育費や、医療・福祉介護費などの社会保障費や、いろいろなものに税金が使われている、普段から当たり前にそれらを利用していていることに気づかされました。

さらに調べていくと、税金には「直接税」という国に納める「所得税」や、地方に納める「住民税」など、収入に合わせて自動的に収入から引かれる税金と、「間接税」という商品にかかる税金で、収入に関係なく、何かを

買った分だけかかる税金があるということを知りました。私たちの生活では「消費税」や、最近ニュースでも話題になっている、自動車や大豆、肉など輸入品にかかる「関税」などがあります。その他にも「直接税」には自動車税、固定資産税、「間接税」には酒税、たばこ税、入湯税など、とてもたくさん種類の税金があります。

こうして考えてみると、税金は私たちの生活の様々なところで集められ、そして使われています。また、公平性を保つためには、いろいろな方法で税金を集めることが必要だということも、税金について調べて初めて知りました。もし、収入が多い人がいつもたくさん税金を払うという集め方だけでは、頑張っても税金で引かれてしまうと思ひ、労働者は頑張りがいが無いと思つてしまいます。その逆に、買った分だけ、使った分だけ税金を納める集め方だけだと、収入がたくさんある人ばかりがたくさんサービスを利用してきて、そうでない人は負担が大きくて、あまりサービスを利用できなくなってしまうと思ひます。

憲法でも定められた「納税の義務」は、決して私たちの生活を苦しめるものではなく、私たちの生活の安全を確保し、快適で豊かな暮らしをする上で重要な、私たち国民共通の大事なルールなのだと思います。